



第94号

2011 / 12

第9回全国バスマップサミット in 弘前 開催

全国のバスマップ（公共交通マップ）を作成した団体などが集まり、知識の交換や交通についての議論を行なう『全国バスマップサミット』が、11月12～13日の2日間にわたり弘前市にて行なわれた。

最初に行なわれたオープニングセッションではまず、RACDAより『アクセスマップ』を紹介した。最初に作成したものは2010年の瀬戸内国際芸術祭のときで、各島間の船便や、駅と港をつなぐバス便を一覧で示した時刻表と地図で構成している。これに続き法界院・間屋町と各種マップを作成していることを紹介した。

また大鰐線トレインキャストさんからは『ふらりおおわにさんぽ』やトレインキャストの仕事などを紹介していただいた。乗客減少が続いている弘南鉄道大鰐（おおわに）線において、初めて来る人に大鰐線沿線の魅力を見つけてもらい、日常乗られている人には



沿線の再発見をしてもらおうと『ふらりおおわにさんぽ』を作成されたという。電車内のつり革も地域の特産品である“りんご”に見たてており、これもトレインキャストさんのアイデアだとのこと。

引き続き行なわれたポスターセッションでは、参加された各地団体の活動を紹介されており、情報交換などが盛んに行なわれていた。新しい取り組みも見られ、こちらも刺激を受けることが出来た。

特別セッションでは東日本大震災後の交通の状況や、バスだから出来た取り組みなどを交通ジャーナリストの鈴木文彦さんより紹介していただいた。新幹線は約1ヶ月間に渡り運休をしていたが、この間に活躍をしたのが特例おもに東北地方と首都圏を結んでいたが、新幹線や空港の復旧にあわせ運行形態も変化していった。

このほか沿岸地域の状況も報告された。津波に流され大破したり建物の上へ上がってしまった車両などあったが、日頃からの危機管理が興をそうして車両を即座に高台へ移動させるなど、今度の教訓となる事例も報告された。

夕方からは会場を大鰐町の「鰐COME」へ移しての開催となったために中央弘前から大鰐線で移動することに。夕方ということもあって会社や学校帰りの利用が見られた。「鰐COME」では夜学・懇親会が開かれ、各地団体との更なる交流を深めた。

このほか2日目には市内巡検もあり、第9回バスマップサミットを締めくくることがとなった。なお次回は札幌市での開催が報告された。

今回のバスマップサミットは弘前大学のサークル”H・O・T Managers”（ホットマネージャーズ）が主催として運営されました。お礼申し上げます。（松田和也）

